

2024年度「科学技術コミュニケーション入門」（広域単位互換科目）シラバス

項目	内容
授業名	科学技術コミュニケーション入門
担当教員	辻 義人
授業形態	夏期集中講義
授業概要	<p>本科目は、科学技術コミュニケーションの理念と実践について、対話形式の学習活動を通して学ぶものである。科学技術コミュニケーションとは、科学技術の専門家と非専門家（市民）とを結びつけ、お互いの対話や理解、さらには、連携や協働を実現するための活動である。</p> <p>具体的な例として、「はこだて国際科学祭」が挙げられる。2024年度における、はこだて国際科学祭のテーマは「環境」である。本科目では、はこだて国際科学祭に関連し、以下の3点について体験的な学びを行う。</p> <ol style="list-style-type: none">(1)なぜ科学技術コミュニケーション活動が必要なのか(2)具体的にどのような活動が行われているのか(3)地域において科学技術コミュニケーション活動を展開する工夫とは
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none">(1) 専門家と市民の対話や学習のデザイン、また、科学技術コミュニケーションに関する基本的な知識や技能を身につける。(2) 受講者間において対話や議論を行うことを通して、連携的・協働的な活動を実体験する。(3) 本科目で予定している対談講演会、また、はこだて国際科学祭の参加体験に基づき、受講者と科学技術コミュニケーション活動の関係性を検討する。(4) 今後、受講者が社会に対してできること、また、やってみたいことをプロジェクトとして検討し、議論と発表を行う。
成績評価基準	出席状況、講義中の発言や参加・貢献態度、講義期間後のレポートに基づき、総合的に成績評価を行う。単位認定要件として、開講期間（三日間）の全プログラムに参加する必要がある。
履修上の注意点	・本科目は、キャンパス・コンソーシアム函館における単位互換科目、南大阪地域大学コンソーシアムにおける広域単位互換科目に指定されている。また、サイエン

	<p>ス・サポート函館における「科学寺子屋」として、広く一般市民の参加を募集している。</p> <ul style="list-style-type: none">・本科目は、全日程について、対面形式で実施する。
キーワード	科学技術，コミュニケーション，社会連携，専門家と非専門家（市民）の協働，環境問題，資源・エネルギー問題，SDGs